

故岩瀬婦佐医師 (横芝町出身) の一生をドラマ化

息子夫妻
も同行

貴州省TV局取材団来町

この話題は、中国貴州省のテレビ局が、同省の人民対外友好協会のきもいりて、日中国交正常化二十周年を記念する特別番組として、中国の医療向上に大きな貢献を果たした岩瀬さんの波乱万丈の人生をえがく「千葉女の中華魂」制作のため、息子夫妻を伴い訪日したものです。

岩瀬さんは明治三十年横芝町上町に生まれ、千葉医師学校を卒業後、県立医科大学付属病院(現千葉大学付属病院)に勤務、婦長当時の大正八年、



波乱の人生中国全土に放映

八月から九月中旬にかけて、NHKテレビを始め新聞各紙で報道された横芝町出身の故岩瀬婦佐さんにかかわるニュースをスクープしてみました。

大正時代に渡支、戦禍の中で医療向上に貢献

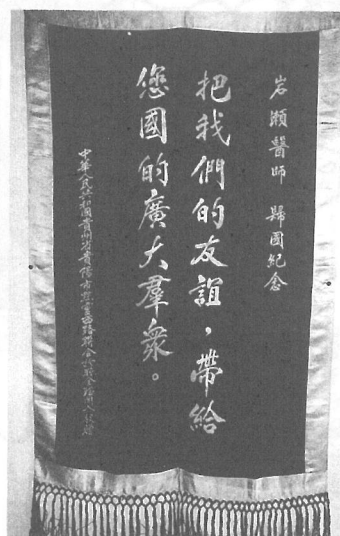
中国政府の要請により医療技術指導のため中国へ渡りました。(二十二歳)

この時一緒に渡ったのが、この病院に留学していた鄧光濟さんで後の結婚相手です。二人は貴陽市に省立病院を



空港での劇的な出会いから精力的に取材撮影活動を行う貴州テレビ局員

建て、岩瀬さんは幼児や婦人を対象とした専門科を創設し



帰国の時に貴州省から贈られた刺繡織の記念幕。「岩瀬医師」と記されている。

部長医師に就任しました。(新聞報道では「看護婦」とありますが、中国にあつては資格を得て医師として活躍しました。)

その後日中戦争などがぼつ発し、排日運動が高まり、敵国人ゆえに何度となく身の危険にさらされましたが、中国人民のため献身的努力を続け、「貴州の母」「貴陽の恩人」と呼ばれるようになり、著名人ばかりを集めた「貴州名人百選」にも選ばれています。

戦時中は日本との交信が途絶え、安否が気づかわれましたが、戦後生存が確認され、昭和二十八年には三十四年ぶ



来町した特別取材団の一行

りに帰国を果たしました。

しかし、中国には夫や子どもを残してきたため、三年後には再び中国へ渡り、昭和三十三年、六十一歳の生涯を閉じました。